

2007年3月期 中間決算概要（連結）

1. 業績の概況について

（単位：億円）

区 分	上期実績 (A)	下期見込 (B)	通期見込 (C)=(A)+(B)	下期比率 (B) / (C) %
営業収益	3,396	3,461	6,857	-
高速道路事業	3,175	3,219	6,394	50.3%
（料金収入）	3,117	2,894	6,012	48.1%
（道路資産完成高等）	57	325	382	85.0%
関連事業	221	242	463	-
営業費用	3,095	3,641	6,737	-
高速道路事業	2,929	3,434	6,363	53.9%
関連事業	166	207	373	-
営業利益	300	180	120	-
高速道路事業	245	215	31	-
関連事業	55	35	90	-
経常利益	302	183	120	-
中間（当期）純利益	171	104	68	-

端数処理の関係で計が合わないことがあります。

2. 高速道路事業のトピックス

（中間期実績）

- ・以下の要因により、中間期の高速道路事業の営業利益は245億円を計上
- ・上期においては、料金収入が全国的な景気の回復を背景に堅調に推移
- ・ゴールデンウィークなどを含む上期は下期と比較して料金収入が多いことも影響
- ・費用では、雪氷対策や集中工事などの影響を受ける下期に比較して上期の費用が少ない

（通期見込）

- ↓
- ・以下の要因により、下期は費用が収益を上回る見込みであるため、営業利益は減少が見込まれるものの、上期における料金収入の堅調な推移を受け、平成19年3月期の高速道路事業の営業利益は、31億円の見込み
 - ・下期においては、上期と比較して料金収入が少なくなる見込み
 - ・費用では、雪氷対策や集中工事などの影響を受けるため上期に比較して下期が多くなる見込み

3. 関連事業のトピックス

(中間期実績)

- ・ 中日本エクシス株式会社()による本格的な道路休憩所事業の開始により、関連事業の営業利益は55億円を計上

平成17年12月8日に当社の全額出資により設立した中日本エクシス株式会社は、平成18年4月1日から事業開始



(通期見込)

- ・ 道路休憩所事業をはじめとした事業展開を進め、平成19年3月期の営業利益は、90億円の見込み

4. その他のトピックス

グループ管理体制の構築

平成18年9月27日の当社取締役会において、企業の一体化と価値の向上を図るため、料金収受子会社を設立することを決議し、次の2社を平成18年10月30日に設立

中日本エクストール横 浜(株)

中日本エクストール名古屋(株)

資産評価誤りの処理

資産額の誤りについては、次のとおり処理

- ・ 過小、過大となっていた資産価額を今年度当初における適正な価額に修正
- ・ 資産価額修正に伴う会計処理は、資本取引とし「その他資本剰余金」に計上
- ・ 平成17年度分の減価償却費相当額は「固定資産等評価調整損」として特別損失に計上

ハイウェイカード偽造被害

特別損失に、ハイウェイカード偽造損失引当金残高を超える当期払戻し分3億円を計上

ハイウェイカードについては、新たな被害推計額(旧日本道路公団分全体で417億円と推計)に基づき、8億円を引当金に再度繰入れ

上記1.2.3.中の業績予想(通期見込)は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要素により、上記予想数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

以上